



●Answer  
沖縄市・コザ山 球陽寺 前住職  
帰依 龍照(きえりゅうしょう)

Q

「このウコールを台所に置いたらダメよ」と友達から驚かれました。母は、「白より青の方がキレイだから大丈夫よ」と言います。色が違う程度で、何か問題ありますか?

(K市・Aさん)

A

ウコールについてのご質問ですね。Aさん、色の違いの意味ですがなさそうであるんです。(汗) ウコールとは、ヒラウコ(平御香)・線香などを焼香する、仏具・神具の香炉(こうろ)のことといいます。コールと言う方もおられます、沖縄の仏事・年中行事など改まつたときは、御香炉(おんこうろ)と格式を高める意味で、心得のある方はウコールと言います。これは、ウチャト(御茶湯)・ウシーミー(御清明祭)など、ウから始まる言葉が、御の尊称を表すと、この通ります。沖縄のウコールには、大別して、カナゴール(金香炉)とドゴール(土香炉)があります。読んで字のごとく、カナゴールとは、真鑑(しんちゅう)などの金物製のウコールのことをいい、ドゴールとは、焼物などの土・石製のウコール(花香炉)とカミウコール(神香炉)があります。ハナウコールは、別名、イルウコール(色香炉)ともい、紺色の釉薬(ゆうやく)に蓮華(れんげ)・青葉の模様が特徴です。

家庭では、ブチダン(仮壇)で莊嚴(しようごん)に使用するウコールです。ブチダンウコールともいいます。また、カミウコールは、別名、シルウコール(白香炉)ともい、白色、または青磁色の釉薬に無地が特徴です。家庭では、ヒヌカン(御火之神加那志)・トウクスカ(御床之神加那志)などで莊嚴するウコールです。ヒヌカンウコール・トウクスカ(ウコールなどともいいます)。一方、カミウコールも先述の通り、白色、または青磁色の釉薬に無地が特徴です。このうち、白色・青磁

蓮根を糧とします。生前には、泥の中の蓮根のことく。迷える人間界にあっても臨終には、湖の上の蓮華のことく。悟れる仏世界に往生するように、との思いから、仏事などで蓮華を使用するようになりましたという説。

このような考え方

は、御仏前・御香典など、金封(きんぶう)の表紙に蓮華のデザインを描くようになった理由だともいいます。一方、カミウコールも先述の通り、白色、または青磁色の釉薬に無地が特徴です。このうち、白色・青磁

かれるのも無理はありません。ヒヌカン用のウコールは、力みウコールが一般的ですから。Aさん、今回は、お友達のアドバイスに感謝しつつ、今日まで大切にされてきた台所のハナウコールからカミウコールに交換されることをお勧めします。日程は、沖縄の仕事で重んじるなら、ウグワブトウチ(御願解き)の旧暦12月24日(平成29年1月21日)・ヒヌカンウシケー(火之神案内)の旧暦1月4日(平成29年1月31日)となります。

ウコールを「キレイだから

大丈夫よ」とおっしゃられて

いるお母さんの考え方

は、個人的にプラス思考で大好きな

発想です。お母さんは、「青

色もキレイだけど、白色も同

じようにキレイだから交換

しましうね」と優しく伝え

てあげてくださいね。

ヒヌカン(御火之神加那志)・トウクスカ(御床之神加那志)などで庄嚴するウコールです。ヒヌカンウコール・トウクスカ(ウコールなどともいいます)。一方、カミウコールも先述の通り、白色、または青磁色の釉薬に無地が特徴です。このうち、白色・青磁

蓮根を糧とします。生前には、泥の中の蓮根のことく。迷える人間界にあっても臨終には、湖の上の蓮華のことく。悟れる仏世界に往生するように、との思いから、仏事などで蓮華を使用するようになら

蓮根を糧とします。生前には、泥の中の蓮根のことく。

迷える人間界にあっても臨

終には、湖の上の蓮華のこと

く。悟れる仏世界に往生す

るように、との思いから、仏事

などで蓮華を使用するよう

になら

たという説。

◎蓮根(れんこん)・蓮華(れんげ)

(仮称)

蓮根を糧とします。生前には、泥の中の蓮根のことく。

迷える人間界にあっても臨

終には、湖の上の蓮華のこと

く。悟れる仏世界に往生す

るように、との思いから、仏事

などで蓮華を使用するよう

になら

たという説。

蓮根(れんこん)・蓮華(れんげ)

(仮称)

蓮根を糧とします。生前には、泥の中の蓮根のことく。

迷える人間界にあっても臨

終には、湖の上の蓮華のこと

く。悟れる仏世界に往生す

るように、との思いから、仏事

などで蓮華を使用するよう

になら

たという説。

蓮根(れんこん)・蓮華(れんげ)

(仮称)

蓮根を糧とします。生前には、泥の中の蓮根のことく。

迷える人間界にあっても臨

終には、湖の上の蓮華のこと

く。悟れる仏世界に往生す

ないように、との思いから、仏事

などで蓮華を使用するよう

になら

たという説。

蓮根(れんこん)・蓮華(れんげ)

(仮称)

蓮根を糧とします。生前には、泥の中の蓮根のことく。

迷える人間界にあっても臨

終には、湖の上の蓮華のこと

く。悟れる仏世界に往生す

ないように、との思いから、仏事

などで蓮華を使用するよう

になら

たという説。

蓮根(れんこん)・蓮華(れんげ)

(仮称)

蓮根を糧とします。生前には、泥の中の蓮根のことく。

迷える人間界にあっても臨

終には、湖の上の蓮華のこと

く。悟れる仏世界に往生す

ないように、との思いから、仏事

などで蓮華を使用するよう

になら

たという説。

蓮根(れんこん)・蓮華(れんげ)

(仮称)

蓮根を糧とします。生前には、泥の中の蓮根のことく。

迷える人間界にあっても臨

終には、湖の上の蓮華のこと

く。悟れる仏世界に往生す

ないように、との思いから、仏事

などで蓮華を使用するよう

になら

たという説。

蓮根(れんこん)・蓮華(れんげ)

(仮称)

蓮根を糧とします。生前には、泥の中の蓮根のことく。

迷える人間界にあっても臨

終には、湖の上の蓮華のこと

く。悟れる仏世界に往生す

ないように、との思いから、仏事

などで蓮華を使用するよう

になら

たという説。

蓮根(れんこん)・蓮華(れんげ)

(仮称)

蓮根を糧とします。生前には、泥の中の蓮根のことく。

迷える人間界にあっても臨

終には、湖の上の蓮華のこと

く。悟れる仏世界に往生す

ないように、との思いから、仏事

などで蓮華を使用するよう

になら

たという説。

蓮根(れんこん)・蓮華(れんげ)

(仮称)

蓮根を糧とします。生前には、泥の中の蓮根のことく。

迷える人間界にあっても臨

終には、湖の上の蓮華のこと

く。悟れる仏世界に往生す

ないように、との思いから、仏事

などで蓮華を使用するよう

になら

たという説。

蓮根(れんこん)・蓮華(れんげ)

(仮称)

蓮根を糧とします。生前には、泥の中の蓮根のことく。

迷える人間界にあっても臨

終には、湖の上の蓮華のこと

く。悟れる仏世界に往生す

ないように、との思いから、仏事

などで蓮華を使用するよう

になら

たという説。

蓮根(れんこん)・蓮華(れんげ)

(仮称)

蓮根を糧とします。生前には、泥の中の蓮根のことく。

迷える人間界にあっても臨

終には、湖の上の蓮華のこと

く。悟れる仏世界に往生す

ないように、との思いから、仏事

などで蓮華を使用するよう

になら

たという説。

蓮根(れんこん)・蓮華(れんげ)

(仮称)

蓮根を糧とします。生前には、泥の中の蓮根のことく。

迷える人間界にあっても臨

終には、湖の上の蓮華のこと

く。悟れる仏世界に往生す

ないように、との思いから、仏事

などで蓮華を使用するよう

になら

たという説。

蓮根(れんこん)・蓮華(れんげ)

(仮称)

蓮根を糧とします。生前には、泥の中の蓮根のことく。

迷える人間界にあっても臨

終には、湖の上の蓮華のこと

く。悟れる仏世界に往生す

ないように、との思いから、仏事

などで蓮華を使用するよう

になら

たという説。

蓮根(れんこん)・蓮華(れんげ)

(仮称)

蓮根を糧とします。生前には、泥の中の蓮根のことく。

迷える人間界にあっても臨

終には、湖の上の蓮華のこと

く。悟れる仏世界に往生す

ないように、との思いから、仏事

などで蓮華を使用するよう

になら

たという説。

蓮根(れんこん)・蓮華(れんげ)

(仮称)

蓮根を糧とします。生前には、泥の中の蓮根のことく。

迷える人間界にあっても臨

終には、湖の上の蓮華のこと

く。悟れる仏世界に往生す

ないように、との思いから、仏事

などで蓮華を使用するよう

になら

たという説。

蓮根(れんこん)・蓮華(れんげ)

(仮称)

蓮根を糧とします。生前には、泥の中の蓮根のことく。

迷える人間界にあっても臨

終には、湖の上の蓮華のこと

く。悟れる仏世界に往生す

ないように、との思いから、仏事

などで蓮華を使用するよう

になら

たという説。

蓮根(れんこん)・蓮華(れんげ)

(仮称)

蓮根を糧とします。生前には、泥の中の蓮根のことく。

迷える人間界にあっても臨

終には、湖の上の蓮華のこと

く。悟れる仏世界に往生す

ないように、との思いから、仏事

などで蓮華を使用するよう

になら

たという説。

蓮根(れんこん)・蓮華(れんげ)

(仮称)

蓮根を糧とします。生前には、泥の中の蓮根のことく。

迷える人間界にあっても臨

終には、湖の上の蓮華のこと

く。悟れる仏世界に往生す

ないように、との思いから、仏事

などで蓮華を使用するよう

になら

たという説。

蓮根(れんこん)・蓮華(れんげ)

(仮称)

蓮根を糧とします。生前には、泥の中の蓮根のことく。

迷える人間界にあっても臨

終には、湖の上の蓮華のこと

く。悟れる仏世界に往生す

ないように、との思いから、仏事

などで蓮華を使用するよう

になら

たという説。

蓮根(れんこん)・蓮華(れんげ)

(仮称)

蓮根を糧とします。生前には、泥の中の蓮根のことく。

迷える人間界にあっても臨

終には、湖の上の蓮華のこと

く。悟れる仏世界に往生す

ないように、との思いから、仏事

などで蓮華を使用するよう

になら

たという説。

蓮根(れんこん)・蓮華(れんげ)

(仮称)

蓮根を糧とします。生前には、泥の中の蓮根のことく。

迷える人間界にあっても臨

終には、湖の上の蓮華のこと

く。悟れる仏世界に往生す

ないように、との思いから、仏事

などで蓮華を使用するよう</p